



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年2月10日

上場会社名 マイクロ波化学株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9227 URL https://mwcc.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉野 巖
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 下條智也 TEL 06-6170-7595
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・証券アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	594	△12.2	△47	-	△81	-	△96	-
2022年3月期第3四半期	677	-	14	-	4	-	△2	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	△6.60	-
2022年3月期第3四半期	△0.99	-

(注) 1. 2021年3月期第3四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、2022年3月期第3四半期の前年同四半期増減率については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	3,050	1,513	49.6
2022年3月期	1,582	625	39.5

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 1,513百万円 2022年3月期 625百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	-	-	-	0.00	0.00
2023年3月期	-	0.00	-	-	-
2023年3月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,133	31.7	67	-	30	-	45	-	3.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	15,248,800株	2022年3月期	13,443,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	－株	2022年3月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	14,658,657株	2022年3月期3Q	2,500,000株

(注) 2022年4月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。当該株式分割については、2022年3月期の期首に株式分割が行われたと仮定して株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。詳細については、第3四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

製造業の中でも化学産業は、原料や素材を担う産業として経済の発展を支えてきました。しかしながら、多くの製品や製法にイノベーションが起こる中、同産業は長きにわたってその登場からほとんど姿を変えておらず、現在も未だ重厚長大のエネルギー大量消費型のプロセスが多く残っています。

当社は、「何を作るか」ではなく「どのように作るか」に着目し、製造プロセスを化石資源由来の「熱と圧力」から電気由来の「マイクロ波」に置き換えることで、「省エネルギー」・「高効率」・「コンパクト」な環境対応型プロセスのグローバルスタンダード化を目指す技術プロバイダーです。

当社は、「デザイン力」及び「要素技術群」からなる技術プラットフォームを駆使して、顧客課題に応じて、ラボ開発、実証開発といった研究開発フェーズから、実機製作、製造支援といった事業フェーズまでをワンストップでソリューションとして提供しております。現在では、食品添加物、医薬品、炭素素材、電子材料などの幅広い分野において研究開発のパイプライン拡充及び積極的な事業開発活動を行っております。

近年、地球規模の課題である気候変動問題の解決に向けて、「カーボンニュートラル」を目指す動きが世界的に加速しております。わが国でも2020年10月、臨時国会で「2050年カーボンニュートラル」が宣言されたことを受け、経済産業省により2兆円のグリーンイノベーション基金が造成されるなど、二酸化炭素排出の削減を経営課題として取り組む企業等に対して、研究開発・実証から社会実装までを継続して支援を行う機運が高まっております。

マイクロ波プロセスは、従来の「外部から」「間接的」「全体」にエネルギーを伝達するプロセスに対して、「内部から」「直接的」「ターゲットした物質」に効率的にエネルギーを伝達することが可能であり、エネルギー削減を実現することができます。さらに、2000年代以降、安価、かつ発電量が増えてきた自然エネルギー由来の電気と組み合わせた「電化」のプロセスとして大幅な二酸化炭素削減が可能であるため、カーボンニュートラル実現に向けた有望なキーテクノロジーとして注目されております。

とりわけ、廃プラスチックを基礎化学原料へ戻してから再重合し新品同様のプラスチックを再生産する「ケミカルリサイクル」の領域においては、マイクロ波を活用したプラスチック分解技術プラットフォームである「PlaWave」を積極的に展開し、多種多様なプラスチックを対象とした共同開発を、複数の化学企業と行っております。

また、このほか、直近における主要な開発プロジェクトとしては、下記が挙げられます。

- (1) カーボンフリーなエネルギーとして期待の高まる水素の製造において、温室効果ガスの一種であるメタンの熱分解により得られる「ターコイズ水素」の省エネルギーかつ高効率な製造プロセス確立を目指した実証開発の開始。
- (2) 鉄よりも強く、アルミより軽いことから、次世代の素材として注目され、今後、モビリティをはじめとする様々な分野において適用拡大が期待される炭素繊維の製造において、環境負荷の低い革新的な技術を用いた量産体制の検討開始。
- (3) 食品や医薬品等を対象とする凍結乾燥において、従来法と比較して、乾燥時間の大幅な短縮や、それに伴う高品質化を可能とする技術を適用したマイクロ波多段式凍結乾燥装置「SiriusWave」の販売開始。

このような「カーボンニュートラル」に貢献する開発テーマを中心に、新規案件の獲得活動に注力したほか、ラボフェーズに続いて実証フェーズに進んだ案件の開発を着実に進めた結果、当第3四半期会計期間末時点では、新規案件獲得数は通期計画25件に対して21件、契約済みの案件総数は通期計画52件に対して52件（うち35件は当第3四半期累計期間に売上計上）となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間における経営成績は、売上高594,978千円（前年同期比12.2%の減少）、営業損失は47,786千円（前年同期は14,539千円の営業利益）、経常損失は81,034千円（前年同期は4,404千円の経常利益）、四半期純損失は96,804千円（前年同期は2,492千円の四半期純損失）となりました。

また、当社は、マイクロ波化学関連事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

総資産は3,050,671千円となり、前事業年度末に比べ1,468,261千円増加しました。これは主に、現金及び預金が1,180,464千円、仕掛品が93,978千円、その他流動資産が221,524千円それぞれ増加したのに対し、売掛金が12,903千円、リース資産が14,952千円それぞれ減少したことによるものであります。

負債合計は1,537,432千円となり、前事業年度末に比べ580,460千円増加しました。これは主に、1年内返済予定の長期借入金が150,000千円、契約負債が540,363千円、その他流動負債が100,245千円それぞれ増加したのに対し、長期借入金が200,000千円、リース債務が14,952千円それぞれ減少したことによるものであります。

純資産は1,513,239千円となり、前事業年度末に比べ887,801千円増加しました。これは、資本金及び資本準備金がそれぞれ492,302千円増加したのに対し、利益剰余金が96,804千円減少したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績予想につきましては、2022年6月24日に公表いたしました業績予想の数値から変更はありません。当資料に記載した予想数値は、現時点での入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大が当社の業績に与える影響は軽微であると考えておりますが、今後の状況の変化により、業績予想の修正が必要になった場合、速やかに開示いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	220,528	1,400,993
売掛金	159,546	146,642
仕掛品	13,691	107,670
その他	122,048	343,572
流動資産合計	515,815	1,998,879
固定資産		
有形固定資産		
リース資産 (純額)	355,245	340,293
その他 (純額)	295,817	300,130
有形固定資産合計	651,062	640,423
無形固定資産	15,166	12,021
投資その他の資産		
関係会社株式	319,444	319,444
その他	80,921	79,903
投資その他の資産合計	400,365	399,347
固定資産合計	1,066,594	1,051,792
資産合計	1,582,409	3,050,671

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,705	9,125
1年内返済予定の長期借入金	50,000	200,000
未払法人税等	10,021	10,404
契約負債	44,620	584,983
その他	102,315	202,561
流動負債合計	211,662	1,007,075
固定負債		
長期借入金	410,000	210,000
リース債務	335,309	320,357
固定負債合計	745,309	530,357
負債合計	956,971	1,537,432
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,298,446	2,790,748
資本剰余金	—	492,302
利益剰余金	△1,673,008	△1,769,812
株主資本合計	625,437	1,513,239
純資産合計	625,437	1,513,239
負債純資産合計	1,582,409	3,050,671

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	677,655	594,978
売上原価	162,825	138,149
売上総利益	514,829	456,829
販売費及び一般管理費	500,290	504,616
営業利益又は営業損失(△)	14,539	△47,786
営業外収益		
受取利息	322	2
受取褒賞金	—	1,000
受取手数料	744	—
その他	535	562
営業外収益合計	1,602	1,565
営業外費用		
支払利息	11,737	5,857
上場関連費用	—	28,955
営業外費用合計	11,737	34,812
経常利益又は経常損失(△)	4,404	△81,034
特別損失		
固定資産除却損	—	13,632
本社移転費用	4,759	—
特別損失合計	4,759	13,632
税引前四半期純損失(△)	△355	△94,666
法人税、住民税及び事業税	2,137	2,137
法人税等合計	2,137	2,137
四半期純損失(△)	△2,492	△96,804

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年6月24日をもって東京証券取引所グロース市場に上場いたしました。上場に当たり2022年6月23日を払込期日とする公募（ブックビルディング方式による募集）による新株式の発行1,700,000株により資本金及び資本準備金が473,110千円増加しております。この結果、当第3四半期会計期間末において、資本金が2,790,748千円、資本準備金が492,302千円となっております。

(セグメント情報)

当社は、マイクロ波化学関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。